

**震災**  
生活ドキュメント

東日本大震災の被災地で活動するボランティア団体を支えているのが、「活動支援金」と呼ばれる募金だ。被災者へ直接分配される義援金とは異なり、緊急物資の輸送や被災地での医療活動などに使われる。ボランティア団体は「募金の選択肢の一つとして考慮してほしい」と訴えている。

**義援金と別 交通費や医薬品代**

家を流された人たちが体育館などで避難生活を送っている岩手県釜石市の釜石中学校。先月28日、NPO法人「アムダ」(岡山)の医師、江口貴博さん(45)は体育館にいた男性(82)に声をかけ、胸に聴診器をあてた。男性が「血圧の薬が変わったので不安です」と訴えると、江口さんが「心配だったらいつでも声をかけてください」と話し、男性も安心したようになされた。

アムダは12日から宮城、岩手両県に医師を派遣し、避難所などの診察を行っている。1日までに医師41人を含む、計14人を被災地に派遣した。現在は岩手県大槌町、宮城県南三陸町で活動している。

こうした活動を支えているのは一般市民から寄せられる活動支援金だ。医師の交通費や医薬品の購入などに使っているという。

災害時の募金は被災地の人たちに分配される「義援金」と、被災地で活動する団体の資金になる「活動支援金」の二つがある。

アムダ理事長の菅波茂さんは「特に災害発生から3か月くらいまでは、様々なボランティア

が被災者を支援する必要がある。活動中のボランティア団体を支援する募金があることを知ってほしい」と訴える。

中央共同募金会(東京)では、

義援金とは別に、ボランティア団体の活動に必要な資金を支援する「災害ボランティア・NPO活動支援のための募金」を今回、初めて設けた。2種類の募金があるため、「どちらが被災者により役立つのか」といった質問が寄せられており、「義援金は被災者本人の生活再建のために、活動支援金は被災者を助ける活動のために使われる」と説明しているという。1日時点で、義援金180億83368万円、活動支援金7億5922万円が集まっている。

日本フィランソロピー協会(東京)も寄せられた募金をプールする支援基金を作り、外部委員を交えた選考で寄付先を決めている。4月には、アムダの

ほか、炊き出しなどを行う「セカンドハーベスト・ジャパン」(東京)、ボランティアのコーディネートなどを行うNPO法人「せんだい・みやぎNPOセンター」(仙台)に配分する予定。今後は、子ども向けの活動を行う団体への配分を検討する。

日本フィランソロピー協会常務理事の林正次さんは「どの団体の活動を支援すればいいのかわからない人は、選考の上で配分している我々のような募金を考えてみるのも一つの方法になる」と話している。(崎長敬志)

**ボランティア支援の募金を**



避難所で暮らす高齢者に体の調子を尋ねる江口さん(中央)。ボランティア団体への支援金が活動に生かされている(28日、岩手県釜石市の釜石中学校で)

**主な活動支援募金**

- ・アムダ ゆうちょ銀行01250・2・40709「特定非営利活動法人アムダ」(通信欄に「東北地方太平洋沖地震」と明記)
- ・中央共同募金会 三井住友銀行東京公務部(普)0162085「社会福祉法人中央共同募金会災害ボランティア口」
- ・日本フィランソロピー協会 三井住友銀行東京営業部(普)8334838「フィランソロピーバンク震災基金」